



# 株式会社メドレックス

## 2023年12月期第2四半期 決算説明資料

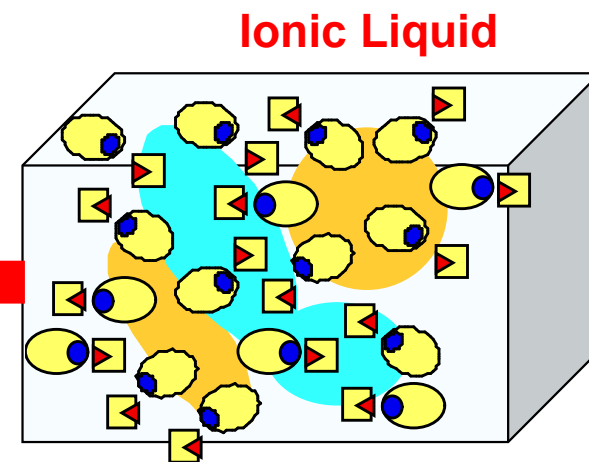
2023年8月28日

# Key Technologyと開発パイプライン

## ●イオン液体を活用した経皮吸収型製剤技術

(ILTS<sup>®</sup> : Ionic Liquid Transdermal System)

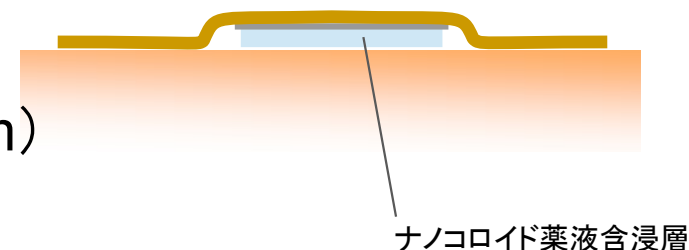
- MRX-4TZT
- MRX-5LBT
- MRX-9FLT
- MRX-6LDT



## ●ナノコロイドを活用した経皮吸収型製剤技術

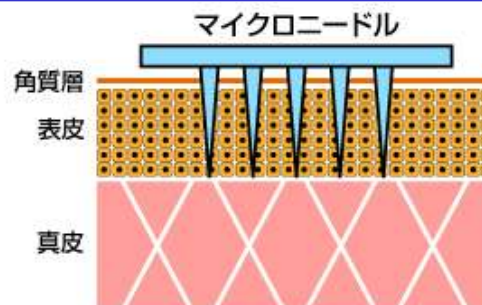
(NCTS<sup>®</sup> : Nano-sized Colloid Transdermal System)

- MRX-7MLL



## ●マイクロニードルアレイ

➤ 貼るワクチン



投与アプリケーター

# 開発パイプライン（第一ターゲット：米国市場）



製品名・ 開発コード	製剤開発	非臨床	Ph- I	Ph- II	Ph- III	承認申請	上市
<b>MRX-4TZT</b> 痙性麻痺治療貼付剤 (チザニジン transdermal, ILTS®)	→			P1b試験成功 P2試験準備中			
<b>MRX-5LBT “Lydolyte”</b> 帯状疱疹後神経疼痛治療貼付剤 (リドカイン topical, ILTS®)	→ 2023.3 再申請 審査終了目標日：2023.9.28						
<b>MRX-9FLT</b> 中枢性鎮痛貼付剤 (フェンタニル transdermal, ILTS®)	→			Fast Track指定 臨床開発実施中			
<b>MRX-7MLL</b> アルツハイマー治療薬 (メマンチン transdermal, NCTS®)	→		IND承諾				
<b>MRX-6LDT</b> 慢性疼痛治療薬 (ジクロフェナック・リドカインテープ剤)	→						
<b>マイクロニードルアレイ (MN)</b>	感染症に対するワクチン等のMN製剤の実現可能性を検討する動物試験を実施中						



# Why USA market First?

- 米国は、世界の医薬品市場の5割弱を占め、近年も高い成長率を維持しています。

【地域別売上高シェア】

2022年全世界売上高 1兆3,349億ドル（約170兆円：1ドル=130円で換算、出所：IQVIA）

米国 47.3%	EU5か国 14.9%	中国 8.4%	日本 5.0%	新興国 11.8%	その他 12.5%
-------------	----------------	------------	------------	--------------	--------------

【年平均成長率2020年～2022年】

米国 8.8%、EU5か国 4.2%、中国 4.7%、日本 ▲7.9%（出所：IQVIA）

また、特に当社グループが主に手掛ける新剤型医薬品（例. 飲み薬→貼り薬）に関して、

- 自由価格の米国市場においては、新剤型による付加価値（効果増大、副作用低減、QOLや利便性向上等）が医薬品価格に反映されやすい

- 一方で、公的保険及び公費で医療費の大半をカバーし公的な医薬品価格が設定される日本や欧州では財政上の制約もあり、米国市場と比較して相対的に、新剤型による付加価値が価格に反映されにくい傾向がある（旧剤型の医薬品価格と大差ない価格になりがち）

と、当社グループでは考えています。

## 2023年12月期2Q 事業ハイライト (1)

### <MRX-4TZT>

- Cipla Techと「ライセンス終了合意契約」を締結し、MRX-4TZTに関する全ての権利が当社に返還された
- P2試験準備中

### <MRX-5LBT “Lydolyte”>

- FDAから承認取得のために必要であると指摘を受けた試験に関して、内容詳細についてFDAと合意した上で追加実施し良好な結果を得た
- 2023.3 承認申請(再申請)
- 審査完了目標日(PDUFA date) : 2023.9.28

### <MRX-9FLT>

- 臨床開発進行中

## 2023年12月期2Q 事業ハイライト (2)

### <MRX-7MLL>

- FDAからの示唆・助言を反映する形での製剤改良＋非臨床試験実施中

### <MRX-6LDT>

- 開発資金不足のためpending

### <マイクロニードル(MN)>

- Feasibility Study公表事案：研究進行中
  - ファンペップとの抗体誘導ペプチドMN製剤
  - コロンビア大学との乳がん治療MN製剤(免疫賦活剤「7DW8-5」＋抗がんペプチド「iRGD」)
  - VaxSyna Inc.との子宮頸がんMNワクチン

# 開発パイプライン（第一ターゲット：米国市場）



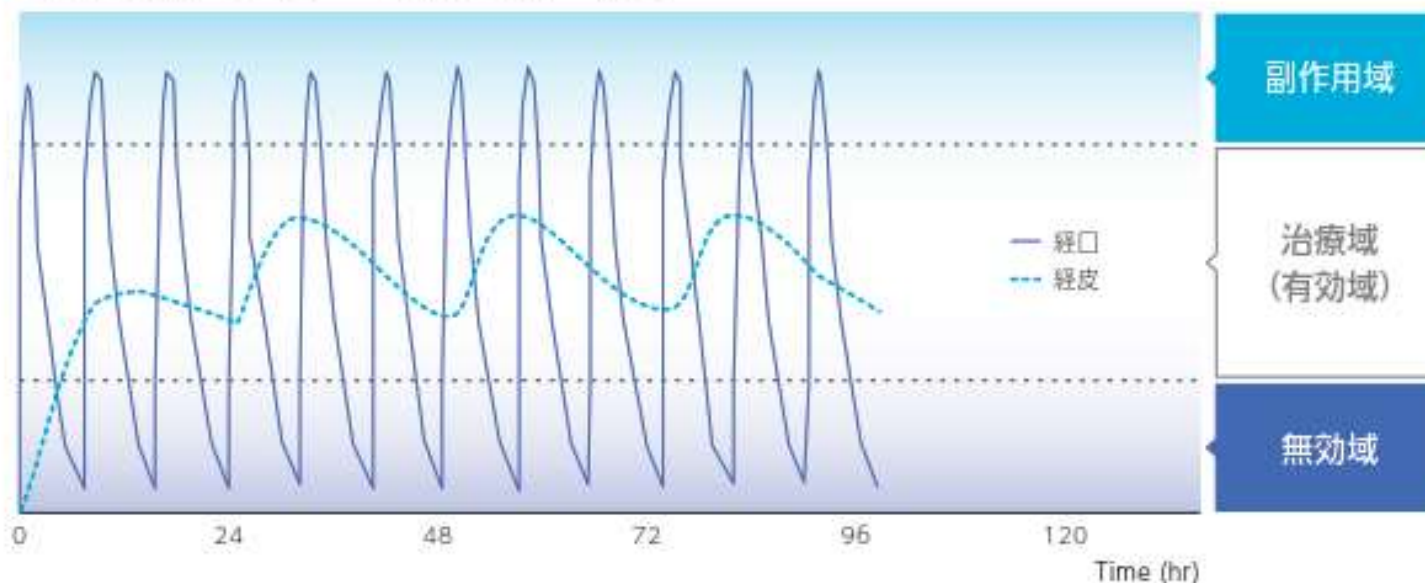
製品名・ 開発コード	製剤開発	非臨床	Ph- I	Ph- II	Ph-III	承認申請	上市
<b>MRX-4TZT</b> 痙性麻痺治療貼付剤 (チザニジン transdermal, ILTS®)	→			P1b試験成功 P2試験準備中			
<b>MRX-5LBT “Lydolyte”</b> 帯状疱疹後神経疼痛治療貼付剤 (リドカイン topical, ILTS®)	→				2023.3 再申請 審査終了目標日：2023.9.28		
<b>MRX-9FLT</b> 中枢性鎮痛貼付剤 (フェンタニル transdermal, ILTS®)	→			Fast Track指定 臨床開発実施中			
<b>MRX-7MLL</b> アルツハイマー治療薬 (メマンチン transdermal, NCTS®)	→		IND承諾				
<b>MRX-6LDT</b> 慢性疼痛治療薬 (ジクロフェナック・リドカインテープ剤)	→						
<b>マイクロニードルアレイ (MN)</b>	感染症に対するワクチン等のMN製剤の実現可能性を検討する動物試験を実施中						

# 痙性麻痺治療薬 “MRX-4TZT”

- 中枢性筋弛緩薬であるチザニジンにILTS<sup>®</sup>を用いて経皮製剤化。

- 経口剤と比して期待される利点：有効血中濃度の持続性、副作用の低減（眠気等）
- 筋弛緩薬の米国市場規模：約1,700億円 in 2022（出所：IQVIA）

■ 経口製剤と比較した経皮製剤の特長 – 血中濃度動態比較



- 経口製剤の血中濃度は、飲んだあと急激に上下するスパイク型の動態を示すため、副作用が出る領域まで上がりすぎてしまうリスクがある。
- 経皮製剤では、皮膚から薬が徐々に吸収される(徐放性)ため、治療域(有効域)の血中濃度が持続し、副作用が出るリスクを減らすことができる。また、治療域(有効域)の血中濃度が持続することから1日の投薬回数を減らすことが可能となる。



# MRX-4TZT：ポテンシャル、開発・提携の状況



- **ピーク時売上予想：300-1,000 million USD（約400-1,400億円）**
  - (Volume) チザニジン経口剤は、米国において年間約10億錠、1日3回服用なので約3.3億日分が処方されており（2017-2021年、出所：IQVIA）、MRX-4TZTの販売ピーク時において、**チザニジン経口剤の9-30%が1日1回貼付の副作用が少ないMRX-4TZTに置き換わると想定すると年間3,000万枚-1億枚**
  - (Price) ピーク時の販売価格を**1枚10USDと想定**
- Cipla Techと「ライセンス終了合意契約」を締結（2023.4）
  - MRX-4TZTに関する全ての権利が当社に返還された
- 臨床第 I 相反復PK試験（P1b）：成功（2019.9）
- **P2試験準備中**

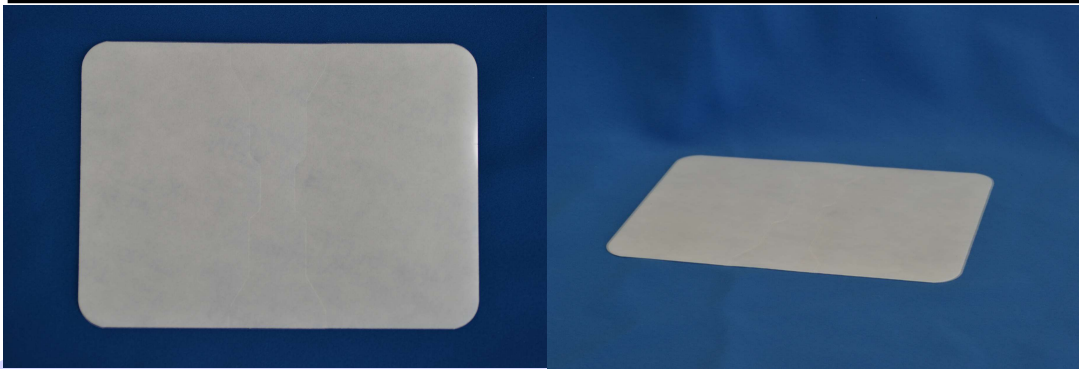
# 開発パイプライン（第一ターゲット：米国市場）



製品名・ 開発コード	製剤開発	非臨床	Ph- I	Ph- II	Ph- III	承認申請	上市
<b>MRX-4TZT</b> 痙性麻痺治療貼付剤 (チザニジン transdermal, ILTS®)	→			P1b試験成功 P2試験準備中			
<b>MRX-5LBT “Lydolyte”</b> 帯状疱疹後神経疼痛治療貼付剤 (リドカイン topical, ILTS®)	→ 2023.3 再申請 審査終了目標日：2023.9.28						
<b>MRX-9FLT</b> 中枢性鎮痛貼付剤 (フェンタニル transdermal, ILTS®)	→			Fast Track指定 臨床開発実施中			
<b>MRX-7MLL</b> アルツハイマー治療薬 (メマンチン transdermal, NCTS®)	→		IND承諾				
<b>MRX-6LDT</b> 慢性疼痛治療薬 (ジクロフェナック・リドカインテープ剤)	→						

<b>マイクロニードルアレイ (MN)</b>	感染症に対するワクチン等のMN製剤の実現可能性を検討する動物試験を実施中
-------------------------	--------------------------------------

# MRX-5LBT “Lydolyte” : ターゲット



- ブロックバスターであったLidoderm<sup>®</sup> (リドカインパップ剤、ピーク時売上\$1 billion 超)の市場がターゲット
  - 適応症: 帯状疱疹後の神経疼痛
  - 米国リドカイン貼付剤市場: 約340億円 in 2022 (出所: IQVIA)
    - ✓ Lidoderm Generic製品が、数量ベースで約9割、金額ベースで約5割を占めている
- Lidoderm<sup>®</sup> (+ Generic製品)との差別化要因
  - 少量(30%弱)のリドカインで同等の効果
  - テープ剤ゆえの使い勝手の良さ

「皮膚刺激性が少なく」「貼付力に優れ」「運動時においても貼付力を保持できる」

# MRX-5LBT “Lydolyte” : 開発・提携の状況

- Lidoderm<sup>®</sup>との検証的な比較臨床(生物学的同等性)試験:成功
- 貼付力評価試験、皮膚刺激性試験により、先行指標製品であるLidoderm<sup>®</sup>より「皮膚刺激性が少なく」「粘着力に優れ」「運動時においても粘着力を保持できる」結果を示した
- デ・ウエスタン・セラピテクス研究所(DWTI)と共同開発契約締結(2020.4)
  - 米国における事業化進捗に応じたマイルストーン(最大2億円)をDWTIより受領
  - 米国事業より得られた収益の一定割合をDWTIに支払
- 審査完了報告通知(Complete Response Letter)を受領
- FDAから承認取得のために必要であると指摘を受けた試験に関して、**内容詳細についてFDAと合意した上で追加実施し良好な結果を得た**
- 2023.3 再申請、**審査完了目標日(PDUFA date):2023.9.28**

# 開発パイプライン（第一ターゲット：米国市場）



製品名・ 開発コード	製剤開発	非臨床	Ph- I	Ph- II	Ph- III	承認申請	上市
<b>MRX-4TZT</b> 痙性麻痺治療貼付剤 (チザニジン transdermal, ILTS®)	→			P1b試験成功 P2試験準備中			
<b>MRX-5LBT “Lydolyte”</b> 帯状疱疹後神経疼痛治療貼付剤 (リドカイン topical, ILTS®)	→ 2023.3 再申請 審査終了目標日：2023.9.28						
<b>MRX-9FLT</b> 中枢性鎮痛貼付剤 (フェンタニル transdermal, ILTS®)	→			Fast Track指定 臨床開発実施中			
<b>MRX-7MLL</b> アルツハイマー治療薬 (メマンチン transdermal, NCTS®)	→		IND承諾				
<b>MRX-6LDT</b> 慢性疼痛治療薬 (ジクロフェナック・リドカインテープ剤)	→						
<b>マイクロニードルアレイ (MN)</b>	感染症に対するワクチン等のMN製剤の実現可能性を検討する動物試験を実施中						

# MRX-9FLT：フェンタニル貼付剤（中枢性鎮痛）



- フェンタニルは、オピオイドの一種で医療用麻薬に指定されており、重度の急性疼痛、慢性疼痛、癌性疼痛の緩和に、主に貼付剤として使用されている。一方で、既存のフェンタニル貼付剤は、使用後の貼付剤を幼児・小児が誤って噛んだり貼付したりすることで死亡する誤用事故が報告されている。
- <https://www.fda.gov/consumers/consumer-updates/accidental-exposures-fentanyl-patches-continue-be-deadly-children>



- MRX-9FLT：貼付剤における誤用事故を抑制・防止する当社の独自技術を適用した、新規のフェンタニル貼付剤
  - 2019年5月の面談会議において、FDAは、フェンタニル貼付剤における幼児・小児の誤用事故防止は重要で価値のあるゴールとの見解を示す
  - 2021年7月 FDAより ファスト・トラック指定
- 米国におけるフェンタニル貼付剤市場は、2022年において約190億円(出所:IQVIA)
  - 誤用事故防止機能という高付加価値化による市場奪取・更なる拡大を狙う
- IND申請(20.3)→最初の臨床試験結果(2020.9)
  - 参照製品と同様の血中濃度推移を確認
  - 誤用事故防止機能について、ヒトでの有用性を予備的に確認
- 参照製品との生物学的同等性を示すための比較臨床試験、誤用事故防止機能を検証する試験等の開発進行中

# 開発パイプライン（第一ターゲット：米国市場）



製品名・ 開発コード	製剤開発	非臨床	Ph- I	Ph- II	Ph- III	承認申請	上市
<b>MRX-4TZT</b> 痙性麻痺治療貼付剤 (チザニジン transdermal, ILTS®)				P1b試験成功 P2試験準備中			
<b>MRX-5LBT “Lydolyte”</b> 帯状疱疹後神経疼痛治療貼付剤 (リドカイン topical, ILTS®)				2023.3 再申請 審査終了目標日：2023.9.28			
<b>MRX-9FLT</b> 中枢性鎮痛貼付剤 (フェンタニル transdermal, ILTS®)				Fast Track指定 臨床開発実施中			
<b>MRX-7MLL</b> アルツハイマー治療薬 (メマンチン transdermal, NCTS®)			IND承諾				
<b>MRX-6LDT</b> 慢性疼痛治療薬 (ジクロフェナック・リドカインテープ剤)							
<b>マイクロニードルアレイ (MN)</b>	感染症に対するワクチン等のMN製剤の実現可能性を検討する動物試験を実施中						

# MRX-7MLL：開発の狙い、開発状況

- 米国アルツハイマー治療薬市場(2022年)は約380億円、うちメマンチン経口剤が約90億円(出所: IQVIA)
- 患者さん及びケアに当たるご家族や医療従事者のQOL(quality of life)及びコンプライアンスの向上(飲み忘れ等の防止)
  - 1日1回の経口剤 vs. 3日に1回(or 7日に1回)貼付剤
    - ご家族や医療従事者が投薬状況を目視確認できる
- FDAとのPre IND meeting
  - 経口剤との生物学的同等性を示すことができれば有効性を示す臨床試験(P2, P3)は必要でないことを確認
- IND提出(2021.11)→承諾
- FDAからの示唆・助言を反映する形での製剤改良＋一部の非臨床試験を実施中→臨床試験



# 開発パイプライン（第一ターゲット：米国市場）



製品名・ 開発コード	製剤開発	非臨床	Ph- I	Ph- II	Ph-III	承認申請	上市
<b>MRX-4TZT</b> 痙性麻痺治療貼付剤 (チザニジン transdermal, ILTS®)	▶			P1b試験成功 P2試験準備中			
<b>MRX-5LBT “Lydolyte”</b> 帯状疱疹後神経疼痛治療貼付剤 (リドカイン topical, ILTS®)	▶ 2023.3 再申請 審査終了目標日：2023.9.28						
<b>MRX-9FLT</b> 中枢性鎮痛貼付剤 (フェンタニル transdermal, ILTS®)	▶			Fast Track指定 臨床開発実施中			
<b>MRX-7MLL</b> アルツハイマー治療薬 (メマンチン transdermal, NCTS®)	▶		IND承諾				
<b>MRX-6LDT</b> 慢性疼痛治療薬 (ジクロフェナック・リドカインテープ剤)	▶						
<b>マイクロニードルアレイ (MN)</b>	感染症に対するワクチン等のMN製剤の実現可能性を検討する動物試験を実施中						

# 慢性疼痛治療薬：MRX-6LDT

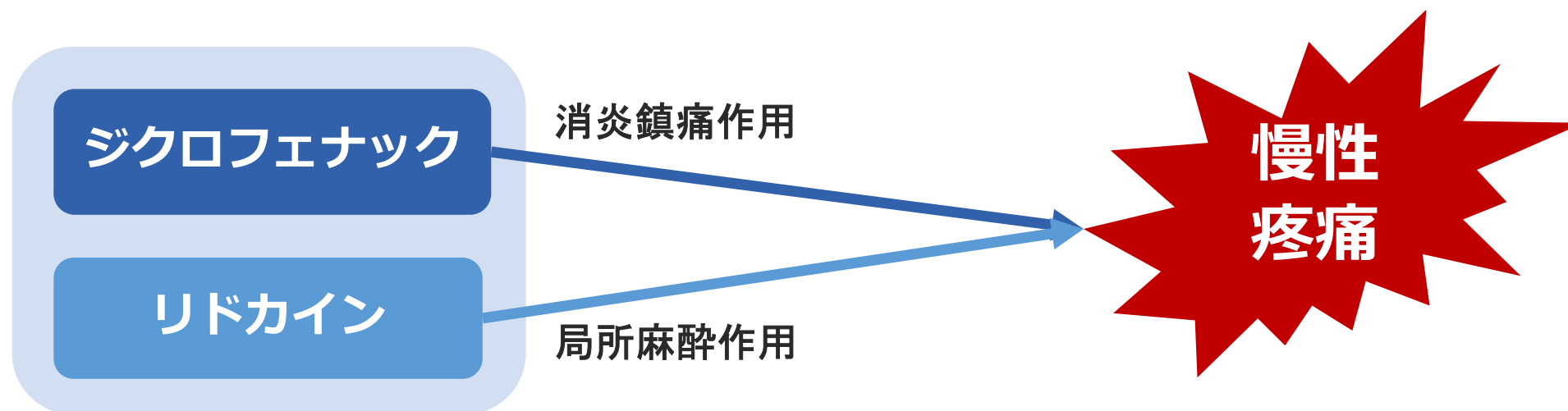
## ● 当社独自の経皮製剤技術ILTS®を用いた慢性疼痛治療薬

➤ 消炎鎮痛薬 **ジクロフェナック** 局所麻酔薬 **リドカイン**

両薬物同時の高い経皮浸透性を実現

➤ 異なる疼痛作用を持つ **ジクロフェナック** と **リドカイン**

の相加的あるいは相乗的な治療効果



# MRX-6LDT：ターゲット、開発の状況

- 米国における慢性疼痛市場は約3.5兆円 in 2019（出所：Reportocean.com）
- 米国での慢性疼痛治療の基盤ともいえるオピオイド鎮痛薬の乱用リスクに対して、米国社会全体から厳しい視線が集まっている



**乱用リスクがなく、有効性と安全性・忍容性に優れた慢性疼痛治療薬には大きな事業機会／潜在市場が存在**

- まずは、非臨床試験と臨床第 I 相試験を実施して、MRX-6LDTの高い経皮浸透性及び製品ポテンシャルをヒトでのデータをもって確認することを計画
  - パイプラインポートフォリオと開発資金余力を睨みながら、開発スピードを検討していく

# 開発パイプライン（第一ターゲット：米国市場）



製品名・ 開発コード	製剤開発	非臨床	Ph- I	Ph- II	Ph- III	承認申請	上市
<b>MRX-4TZT</b> 痙性麻痺治療貼付剤 (チザニジン transdermal, ILTS®)	→			P1b試験成功 P2試験準備中			
<b>MRX-5LBT “Lydolyte”</b> 帯状疱疹後神経疼痛治療貼付剤 (リドカイン topical, ILTS®)	→ 2023.3 再申請 審査終了目標日：2023.9.28						
<b>MRX-9FLT</b> 中枢性鎮痛貼付剤 (フェンタニル transdermal, ILTS®)	→			Fast Track指定 臨床開発実施中			
<b>MRX-7MLL</b> アルツハイマー治療薬 (メマンチン transdermal, NCTS®)	→		IND承諾				
<b>MRX-6LDT</b> 慢性疼痛治療薬 (ジクロフェナック・リドカインテープ剤)	→						

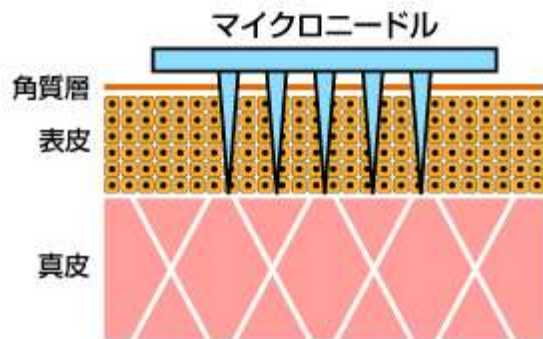
## マイクロニードルアレイ（MN）

感染症に対するワクチン等のMN製剤の実現可能性を検討する動物試験を実施中

# マイクロニードル(MN)の特長、当社MNの特長

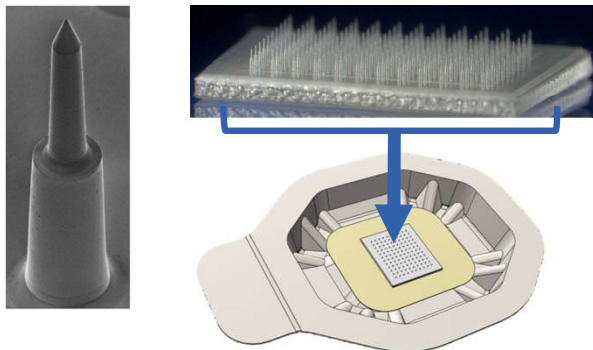
## 投与デバイスとしてのマイクロニードル (MN) の特長

角質層を無痛で局所的に破壊してワクチン抗原や薬剤を真皮層に投与する、非常に新規性の高い医療デバイス



- **従来の注射製剤と比べて、高い免疫効果**が期待される
  - ワクチン、免疫系疾患
- **医療環境が未整備の新興国やパンデミック発生時への対応**も期待される
  - 常温輸送・保管（冷蔵・冷凍での輸送や保管を必要としない）
  - 自己投与可能
- **無痛**
- **速効性**あり（vs.経口）
  - 片頭痛 等

## メドレックスMNの特長



**簡便で確実な投与を実現**

簡便で確実な投与を実現する鋭い針先



**アプリケータ（挿入器具）と一体となった形で流通・供給**



**指で押すだけで確実な投与  
ディスポーザブル**

# MN 事業：ターゲット市場と競争環境

## <潜在市場規模>

### ●ワクチン向けMN：1,550億円～3.1兆円

(2021年世界ワクチン市場\*[1,410億米ドル] x MN採用率[10-100%] x ワクチンメーカーへの供給価格、対ワクチン末端価格[10-20%]、\*WHO's Global Vaccine Market Report 2022)

## <競合>

### ●少し先を行く競合は存在するものの、いまだ医療用デバイスとしてMN量産を実現しているplayerは存在しない。

- Micron Biomedical, Vaxxas, Vaxxes, LTS...
- 久光製薬、コスメディ製薬...

## <当社の現況>

### ●2020.4～治験薬工場稼働。国内外の製薬会社・ワクチンベンチャー等と Feasibility Studyを通じて事業提携を模索

### ●Feasibility Study公表事案：研究進行中

- ファンペップとの抗体誘導ペプチドMN製剤（FPP005）
- コロンビア大学との乳がん治療MN製剤（免疫賦活剤「7DW8-5」＋抗がんペプチド「iRGD」）
- VaxSyna Inc.との子宮頸がんMNワクチン



# 重要な経営指標

## 2023年12月期2Q決算概況

---

---

## 重要な経営指標（1）

- 創薬パイプライン型ベンチャーである当社グループにおいては、「創薬パイプラインの製品化に向けた開発の進展」「開発アセットの価値向上」こそが、当社グループの企業価値向上に最も大きく寄与する最重要の経営指標

### 2023年開発計画

- CPN-101 (MRX-4TZT) : 米国にて第2相臨床試験を実施予定
- MRX-5LBT “Lydolyte” : 米国にて新薬承認取得のための再申請および承認取得予定
- MRX-9FLT : 米国にて参照製品との生物学的同等性を示すための検証的な比較臨床試験等を実施予定
- MRX-7MLL : 製剤改良した上で一部の非臨床試験を追加実施予定



## 重要な経営指標（2）

- 未だ主要パイプラインが臨床開発段階にある創薬パイプライン型ベンチャーの当社グループとして、最重要視している財務指標は「現有資金」

現有資金

13億円(2023年6月末)

積極的に研究開発を進める(年間1-2本程度の臨床試験を実施:研究開発費8億円前後)上で、約1年分の事業資金を確保しています(2023年6月末時点)。

なお、当社グループでは2023年3月8日に「第三者割当による第25回新株予約権(行使価額修正条項付)の発行及び新株予約権の買取契約(コミット・イシュー)の締結に関するお知らせ」を公表して資金調達額1,358百万円(差引手取概算額)を目標とした資金調達を実施中です。2023年7月末時点の調達資金額は約7.3億円(行使比率59%)となっています。



## 2023年12月期第2四半期 連結利益計画の進捗状況

連結（百万円）	2023年12月期 第2四半期	2023年12月期 通期計画	進捗率	備考
売上高	6	127	5.4%	
製品売上	6	6	101.7%	PCL販売等
研究開発等収入	—	121	—%	DWTI (MRX-5LBT “Lydolyte”)からのマイルストーン収入等
販売費及び 一般管理費	483	955	50.6%	
研究開発費	360	746	48.3%	臨床試験費用等
その他管理費	122	209	58.6%	
営業利益(△損失)	△478	△830	—	
経常利益(△損失)	△480	△783	—	
当期純利益(△損失)	△481	△786	—	

(注) 「MRX-5LBT “Lydolyte”」の販売提携に伴う一時金については、現時点では不確定要素が大きいことから見込み売上高に計上していません。また、現在進行中の第25回新株予約権による資金調達が進捗が順調に進み、当社グループがMRX-4TZT臨床第2相試験を実施することを決定した場合は、2023年12月期業績へ及ぼす影響を速やかに公表する予定です。

当資料は、株式会社メドレックスから直接提供する方法でのみ配布致しております。提供された方のみご使用下さい。この資料のいかなる部分も一切の権利は株式会社メドレックスに帰属しており、電子的または機械的方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製等を行わないようお願い致します。また、当資料は、現時点における社内計画に基づき作成したものであり、今後変更の可能性が有ります。



## 2023年12月期第2四半期 連結損益の状況

連結（百万円）	2022年12月期	2022年12月期 第2四半期	2023年12月期 第2四半期	備 考
売上高	59	9	6	
製品売上	9	9	6	PCL販売
研究開発等収入	50	—	—	
販売費及び一般管理費	1,155	381	483	
研究開発費	921	274	360	臨床試験費用等
その他管理費	233	106	122	
営業損失	△1,098	△374	△478	
経常損失	△1,122	△382	△480	助成金収入 <sup>2</sup> 為替差益 <sup>4</sup> 株式交付費 <sup>3</sup> 営業外支払手数料 <sup>5</sup>
当期純損失	△1,111	△381	△481	

当資料は、株式会社メドレックスから直接提供する方法でのみ配布致しております。提供された方のみご使用下さい。この資料のいかなる部分も一切の権利は株式会社メドレックスに帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製等を行わないようお願い致します。また、当資料は、現時点における社内計画に基づき作成したものであり、今後変更の可能性がございます。



## 2023年12月期第2四半期 連結貸借対照表の状況

連結（百万円）	2022年12月期	2023年12月期 第2四半期	増減	備 考
流動資産	1,087	1,448	361	
現金及び預金	994	1,326	332	次ページの「2023年12月期第2四半期 連結キャッシュ・フローの状況」を参照
その他	92	122	29	
固定資産	311	288	△23	
有形固定資産	226	203	△22	
投資その他	84	84	△0	
資産合計	1,398	1,736	338	
負債	185	56	△129	
流動負債	158	28	△129	未払金の減少△117 未払法人税の減少△12
固定負債	27	27	0	
純資産	1,212	1,680	467	
負債・純資産合計	1,398	1,736	338	

当資料は、株式会社メドレックスから直接提供する方法でのみ配布致しております。提供された方のみご使用下さい。この資料のいかなる部分も一切の権利は株式会社メドレックスに帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製等を行わないようお願い致します。また、当資料は、現時点における社内計画に基づき作成したものであり、今後変更の可能性がございます。



## 2023年12月期第2四半期 連結キャッシュ・フローの状況

連結（百万円）	2022年12月期 第2四半期	2023年12月期 第2四半期	備 考
営業活動キャッシュ・フロー	△437	△615	当期四半期純損失△480 減価償却費 22 前渡金の増減額△19 未払金の増減額△117 未払事業税の増減額△11
投資活動キャッシュ・フロー	△0	△0	-
財務活動キャッシュ・フロー	0	950	第25回新株予約権の発行による収入1百万円 第24回新株予約権の行使による株式の発行 収入 222百万円 第24回新株予約権の行使による株式の発行 収入 726百万円
現金及び現金同等物換算差額	3	△2	
現金及び現金同等物増減額	△434	332	
現金及び現金同等物期末残高	1,269	1,326	

当資料は、株式会社メドレックスから直接提供する方法でのみ配布致しております。提供された方のみご使用下さい。この資料のいかなる部分も一切の権利は株式会社メドレックスに帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製等を行わないようお願い致します。また、当資料は、現時点における社内計画に基づき作成したものであり、今後変更の可能性が有ります。

# 本資料の取り扱いについて

---

- 本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的としておりません。
- 本資料は、正確性を期すべく慎重に作成されていますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害について、当社は一切の責任を負いません。
- 本資料は、いわゆる「見通し情報（forward-looking statements）」を含んでおります。これらは、現在における見込、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には一般的な業界ならびに市場の状況、金利、為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新たな情報・将来の出来事等が発生した場合でも、当社は本資料に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。